

# 学校法人 木下学園 カナン国際教育学院

## 2019年度 自己点検・評価

5：達成している／4：ほぼ達成している／3：どちらともいえない／2：取り組みを検討中／1：改善が必要

1. 教育の理念・目標等	評価
1-1 学校の理念・目標や育成する人材像は明確となっているか	5
1-2 学校の理念・目標や育成する人材像は社会のニーズに合致しているか	5
1-3 学校の理念・目標は全教職員に共有されているか	5
1-4 学校の将来構想は策定しているか	5

### 《現状・具体的な取り組み／課題》

本校は進学に特化した日本語教育機関であり、学校理念の一つに「世界で活躍できる人材の育成」を目指すということを掲げている。本校での教育を通して、大学或いは大学院へ進学してもらい、将来は日本はもちろん、世界のどこへ行っても活躍できる人材になってほしいという理念を持って、日々教育を行っている。実際に本校の授業では、日本語だけでなく、日本の文化や習慣、ビジネスマナー等、多岐にわたって指導をしており、本校の数多くの卒業生が日本だけでなく、世界各国で活躍しているのは、本校での指導が大いに役立っているものと考えます。

本校では、半年に一度行われる全教員の会議の際に、学校理念と教育目標について説明を行い、認識の再確認を行っている。それに加え、全専任教職員が作成する自身の評価用目標管理シートにおいては、学校理念・教育目標をブレイクダウンし、各部の目標が設定され、そして各専任教職員が各自の目標を設定をしている。それ以外にも、職員室や冊子、教職員用のポータルサイトにも理念は掲示している。

本校は現状維持を求めるのではなく、常に進化を求め、更に良い環境、教育を全学生並びに全教職員に提供するために、中長期計画にて以降10年の計画をし、達成に向けて日々努めている。

2. 学校運営	評価
2-1 日本語教育機関の告示基準は満たしているか	5
2-2 学校の理念や目標に沿った運営方針や事業計画は策定されているか	5
2-3 組織運営や意思決定システムは整備されているか	5
2-4 人事や賃金、財務管理に関する規定は整備されているか	5
2-5 コンプライアンス体制は整備されているか	5
2-6 危機管理体制は整備されているか	5
2-7 IT化等による業務の効率化は行っているか	5

### 《現状・具体的な取り組み／課題》

本校では、日本語教育機関の告示基準を満たしている。主に、校長と各部部長が告示基準の担当となり、あらゆる面において告示基準から逸れることがないように精査するとともに、全専任教職員が告示基準について理解をし、実行ができるよう、告示基準の勉強会も行い、周知をしている。

危機管理体制について、本校独自の「学校危機管理対応マニュアル」を作成・運用している。また、近年懸念されている大地震が起きたことを想定し、毎年2回校内において、消防署の指導の下、避難訓練を実施している。またこれに加えて、毎年1回本所防災館へ行き、学生に地震、火事、暴風雨などあらゆる体験をさせている。2019年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、感染症対策についてもマニュアルへ追加することとし、さらなる体制強化につとめる。コンプライアンスとしては、毎年外部の講師を招き、ハラスメント研修、個人情報、情報セキュリティの研修を行なっている。

IT化は常に積極的に行っており、引き続き少しでも業務の効率化ができることがあれば、検討し導入をしている。学校内で扱うデータについてはサーバーでの管理に加え、クラウド上での管理も併用し、さらなる効率化を推進中。

### 3. 教育活動

評価

3-1	教育理念に沿った教育課程(カリキュラム)は体系的に編成されているか	5
3-2	成績評価や進級、修了の判定基準は明確、且つ適切に運用されているか	4
3-3	教員の指導力(教育の質)向上のための取り組みは行っているか	4
3-4	教育課程(カリキュラム)の改善のための取り組みは行っているか	5

#### 《現状・具体的な取り組み/課題》

本校の教育理念である「世界で活躍できる人材の育成」を目指し、日本語だけでなく日本の文化や日本を理解すること、そして世界で活躍できる人材として通用する多種多様な学習、活動を設定設置している。

初級コース、中級コース、上級コース、特進（大学院・上位大学）コース等があり、それぞれのコースでの教育目標達成に向けたカリキュラムが設定され、レベルはJLPTに準拠した設定となっている。

メインテキストに応じた副教材・確認テスト・復習テストの作成も行っている。

特進クラス（学部用と大学院用）の設置に関しては、学生の目標と実力が乖離している部分があり、大学、大学院共にまだ課題がある状況。この結果をもとに2020年度以降、改善を行う。

進学に特化した入学から卒業までのカリキュラム設計は、可視化できるものを導入し、より意識レベルを上げるための取り組みを実施予定。

### 4. 学修成果

評価

4-1	日本語能力向上のための取り組み、把握は適切に行っているか	5
4-2	各種試験の合格率或いは成績向上のための指導体制は整っているか	4

## 《現状・具体的な取り組み／課題》

昨年度から引き続き、学生の入学から修了・卒業までの学習成績の記録をデータベース化し、クラウド上で管理し、EJUやJLPT等の外部試験の結果をいつでも把握が出来るようにしている。

本校ではEJUとJLPTの結果を特に重視しているため、日常的にEJUとJLPTを意識したカリキュラムを作成し、運営している。また、試験前には試験対策や模擬試験などを行い、学生の進学希望を叶えるために最大限の支援を行っている。

また、進路指導においても、エクセルシートを用いたアンケートを作成し、直ぐに現在の進学希望先がわかる仕組みとなっている。こちらもクラウド上で管理することによって、全職員がいつでも閲覧できるようになっている。

なお、2019年度は新たな試みとしてJLPT対策授業・オンライン授業（コロナ対策のため）を実施し、学生・講師陣から今後も継続を希望する声も多く聞かれた。課題点は見直しつつ、より良い形で継続できるよう推進する。

## 5. 生徒支援

## 評価

5-1	学習や生活等の相談に対する支援体制は整備されているか	4
5-2	学生の身心の管理、事故、怪我等が起きた際の体制は整っているか	5
5-3	日本での生活の指導や支援、犯罪に係る防止教育は行っているか	5
5-4	防災や緊急時における体制が整備されているか	4

## 《現状・具体的な取り組み／課題》

入学時オリエンテーション（中国・ベトナムなどのネイティブの職員や各国の通訳を介して）、東京都青少年・治安対策本部より留学生向けの注意説明会を行い、その他年4回以上の学生注意説明会および緊急集会を通じて、出席率、アルバイト、自転車交通ルール、生活マナーなどをテーマとしてしっかりと学生に伝えるよう整備している。何かが起こってからではなく、未然に防ぐための学生指導を行っている。思いがけず事件や事故等に巻き込まれた場合には担当の職員へ即座に連絡するよう指導を徹底している。

また、健康管理の面では、新型コロナウイルスの感染拡大をふまえ、公欠ルールの見直しと教職員への共有、場面に応じた欠席届出のフロー整備を行い、感染症対応について危機管理マニュアルへ記載するとともにHP上での公開も予定している。

## 6. 教育環境

## 評価

6-1	学校の施設・設備が十分且つ安全に整備されているか	5
6-2	実際に使用している教材は適切であるか	5
6-3	学習効率を図るための環境整備はなされているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

周辺環境が静かで、駅からのアクセスもよく、校舎内教室等施設については「日本語教育機関の運営に関する基準」、並びに「日本語教育機関審査内規」の定めるところを十分に満たしている。自主学习についてはさらに視聴覚教材等を整え、学生が利用できるよにしてある。図書室には、随時新刊を取り揃え、自主学习の場として提供をするだけでなく新たな学びのきっかけ作りも行っている。校舎内で設備等の不具合が見られる場合には、即時修繕対応を行うこととしている。

教材は各レベルに応じて配布し、また足りない部分は副教材を作成し、学生たちに配布している。また、教員にも教材を無料配布し、しっかりと授業準備ができるようにしている。学習効率を計るために、語彙や漢字、文法項目を厳選して、4か月単位で進級できるようにしている。

## 7. 入学者の募集

評価

7-1	入学者の募集活動、入学選考は適正に行っているか	5
7-2	募集活動の際に学校情報は正確に伝えられているか	5
7-3	授業料は適切であるか	5
7-4	定員数に応じた募集活動は行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

2019年度は、従来の訪問での営業に加え、オンライン説明会も積極的に行うことで、例年以上の学生を募集することができた。募集を行う上で、パンフレットだけでなく、提案資料、動画、SNSなども用いて、学校の魅力を直感的に分かりやすく伝えている。

また、本校は進学に特化した日本語学校のため、目的に沿った進学を志す学生をしっかりと募集できたことから、取組としては功を奏している。

2018年より東南アジア圏の学生を中心に、留学生数が減少傾向にある中で、学校の授業料を据置としていることは学生募集において非常に大きなメリットとなっている。

本校の場合は、定員400名のため、毎年200名を募集可能人数として設定している。また、200人の国別内訳もあり、それに沿って募集チームで取り組んでいる。

## 8. 財務

評価

8-1	中長期的に財務基盤は安定しているか	4
8-2	予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	5
8-3	財務について、会計監査は適切に行っているか	5
8-4	財務情報の公開の体制は整っているか	2

《現状・具体的な取り組み／課題》

2018年4月より学校法人になってから、定員の400名を維持できているため、財務基盤作りは徐々にできている。また、顧問税理士との密な連携と社内の経理チームを作ることにより、体制づくりもできている。また、理事会及び評議員会で承認された予算・収支については、2019年度は、教職員の増員や募集向けのウェブプロモーションへの予算増加、ICTへの設備投資の強化に予算を寄せたが、ほぼ計画通りに推移することができた。また、その結果も良い方向で着地することができたと考えている。

財務情報の公開については、現状掲載する内容の整理と掲載に向けての体制作りをしているので、それが出来次第と考えている。

9. 法令遵守

評価

9-1	各種法令等の遵守と、適切な運営はされているか	4
9-2	個人情報の保護の取り組みは行っているか	5
9-3	自己点検・評価を実施・改善は行っているか	5
9-4	自己点検・評価の公開は行っているか	5
9-5	関係省庁への届出、報告を遅滞なく行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

本校は各種学校の日本語学校として、東京都、法務省の法令、設置基準を満たしており、また、法務省からは2005年以降適正校としての認定を受けている。今年度も適正校の認定を頂いている。

個人情報保護においては、今年度からは外部講師を招いて研修を行なっている。また、各部でも個人情報保護の管理を徹底している。本校の方針として、ペーパーレス化を推進しているため、紙での運用を徐々に減らしている。個人情報含めたデータ上の管理・破棄のルールに関しても、本校のボードメンバーを中心に各部で指導を行い、個人情報保護についての規程も設けている。さらに、ホームページ、SNS、ウェブ媒体に関する個人情報管理については今後より強化すべく、専門の方のアドバイスを受けながら最適な管理運用に努めていく。一方、学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおける説明（母国語）やクラスでのホームルームでも随時指導を実施。大型の休みに入る前にも必ず注意事項の説明を行なっている。

自己点検・評価については、2017年度より実施・改善を行なっている。またホームページ上でも情報の公開を行なっている。

10. 地域貢献・社会貢献

評価

## 《現状・具体的な取り組み／課題》

異文化交流・コミュニケーションを目的として、日本人大学生と本校の生徒が交流することができる活動を年に2回、本校校舎において開催。日本人大学生にとっては外国人留学生と、本校の生徒にとっては日本人のことをよく知ることができる、とても良い機会になっている。今後は日本人大学生のみならず、対象の範囲を広げていき、本校の目の前にある都立城東高校さんとも交流を深めていきたいと考えている。

また、週末においては、中国語教室に場所を提供しており、日本で暮らす未就学児から中学生まで、多くの子供達が勉強する場となっている。

本校の生徒に向けて、今後は積極的な奨励を行っていきたい。

## 《総括》

本校では3つの学院目標がある。

1. 「世界で活躍できる人材の育成」を目指す。
2. 本校の学生、教職員、関わる全ての方に最適な環境を提供する。
3. 東京都を代表する日本語学校になる。

この3つの学院目標を覚え、教職員一同全力で学院目標の実現に向けて取り組んでいる。特に、2については、「学生の満足度を上げるためには教職員の満足度も上げる必要がある」という考えのもと、教職員の満足度を上げる取り組みも十分に行なっている。

(具体的には、学生アンケートのみならず教職員に随時アンケートをとること、意見箱を設置するなど。経営・学校運営の指標の一部として参考にし、回答が必要なものについては確実に回答している)

また、学生向けの教育理念も3つある。

1. 「世界で活躍できる人材の育成」を目指す。
2. 日本語教育を通じて、日本社会で自立できる人材を育成する。
3. 学生の目標とする進学先合格に向けて最大限支援を行う。

この3つは教職員だけでなく、学生にも覚えてもらっている。特に、3については、2017年より強化を開始し、以来本校の大きな強みとしている。教員と学生一対一での進学サポート・指導プログラムを導入し、対面で進学対策の時間を設けることで学生の満足度を向上させ続けている。

これらの理念を実現させることを目指すとともに、10カ年の中期計画の達成に向けても、教職員一同に目標を共有して、全体で同じベクトルに向けて進めることができている。